

第38回 経営協議会 議事要録

- 日 時 平成24年1月26日（木）14時03分～15時32分
- 場 所 事務局第二会議室
- 出席者 宮田亮平学長、畑中裕良理事、井橋光平理事、
池田政治美術学部長、植田克己音楽学部長、堀越謙三大学院映像研究科長、
中村胤夫委員、石田義雄委員、福井俊彦委員、高階秀爾委員
- 欠席者 遠山敦子委員、滝 久雄委員
- 陪 席 監事：中島尚正監事、竹内雄也監事、
渡邊健二理事、北郷 悟理事、宮廻正明学長特命・社会連携センター長、
多田羅迪夫学長特命、田口榮一附属図書館長、関 出大学美術館長、
杉木峯夫演奏芸術センター長

○ 議事に先立ち、議長から、新任の経営協議会委員について、下記のとおり紹介があった。

- ・ 畑中裕良 理事（総務担当）【三浦春政 理事（総務担当）後任】

議題

1. 平成23事業年度の業務運営に関する計画の変更について
議長から標記のことについて提案があり、畑中理事から資料に基づき説明があり審議の結果、原案どおり承認された。

報告及び連絡事項

1. 平成24年度収入・支出予算額等について
標記のことについて、畑中理事から資料に基づき報告があった。
 - ・ 特別経費による「ピアノ」、「GTS」、「アジアの芸術系大学によるサミット及びシンポジウム」、「アーカイブセンター」について、各担当者から説明があった。
2. 平成24年度施設設備概算要求に係る重点事項の概要について
標記のことについて、畑中理事から資料に基づき報告があった。
3. 平成22年度に係る業務の実績に関する評価の結果について
標記のことについて、畑中理事から資料に基づき報告があった。
4. 平成24年度経営協議会開催日程について
標記のことについて、総務課長から資料に基づき報告があった。

5. その他（昨今の本学をめぐる諸情勢について）

- 議長から、平野文部科学省大臣との面談について報告があった。
 - ・ 世界に通用する人材育成には、語学教育だけでなく、世界言語である「芸術」を基本として交流することである。
 - ・ 「文化」とは、限られた人のものでなく、経済、科学、学術など全てを含めたもので、これを応援することが、ひいては国を支えることになる。

外部委員からの主な意見

- 藝大の積極的社会貢献活動には感心するが、外部には知らない人も多いので、もっと世間に周知する必要があると考える。
- アジアを中心とした日本での取組は理解したが、日本から海外へ打って出るようなもの、及び欧米に対するスタンスがよく見えない。
- 新総理は教育について語っていない。教育の中の文化についても学長からアピールをお願いしたい。
- 日本には、伝統と新しいものをミックスした地方文化がない。地方を再構築するときには、藝大が持つものでサポートすれど、おもしろいものができるのではないか。
- アーカイブについては、これからの社会を作る人たちが、手続きを含めて手軽に利用することができるものを期待する。
- ドイツのある村では、ソーラーシステムなど新しいものを取り入れても、美しい景観を残している。
- 日本では、一定の顔を持った地方都市が衰えている。私見だが、これは住民の要望に応える制度が日本にないからと考える。
- 藝大は、秋入学に限らず、能力主義による柔軟な入学・卒業時期を考えてはどうか。
- 評価について、展覧会、演奏会は、収入や入場者数のような数値でなく、優れたものを行うことが評価されるべきで、そのことを藝大自身で発信してはどうか。
- アーカイブについては、誰しも見ることができ、地球上のどこからでもアクセスできるものを期待する。
- 地方都市の問題は、古いものと新しいものを共存させるためには、制度とともに、広い見識と空間意識を持ったデザイン感覚が必要。これは表現の質の問題であり、藝大が考え、発信していく良いテーマと思う。
- ひとつの取組として、三越本店で、人は入らなくとも若い作家中心の展覧会を敢えて行った。効率経営が優先されがちだが、人を育てるためには金儲けのような数値の評価でなく、文化を大切にしなければならない。
- 地方の町で行われる体験学習が行き詰まってきているが、文化を冠した町づくりでは、町へのリピーターも増えるし、長続きもする。これには芸術を分かる人材が必要であり、同時に文化的な人材育成が必要となる。
- 机上配付資料について、それぞれ説明があった。
 - ・ 大学美術館長から、展覧会「禁断洋画の開拓者 高橋由一」について
 - ・ 演奏芸術センター長から、藝大プロジェクト2011「元禄～その時、世界は？」実施レポートについて